

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3577800422		
法人名	特定非営利活動法人 宅老所 あじさい		
事業所名	グループホーム あじさい室津		
所在地	山口県 下関市豊浦町大字室津下1443-1		
自己評価作成日	平成22年5月31日	評価結果市町受理日	平成23年1月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

明るく家庭的な雰囲気重視し、利用者が安心感を持って、「日々笑顔をつとめ、個性豊かに生活出来るよう努めています。また、個々の心身の状態に合わせた介護内容を日々検討し、快適に生活できるように援助しています。

- ・体調の悪い方以外基本的に毎日入浴を行っています。
- ・一年を通じて足浴を行い、清潔の保持・水虫等感染症対策につなげている。また、利用者お一人お一人とのコミュニケーションの場でもある。
- ・利用者同士または、職員との馴染みの関係を大切にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

勤務の一環としての外部研修への参加や復命研修等による知識の共有の機会を設けるなど、職員を育てる取り組みに努めておられます。職員会議には全職員が参加し手当を支給され、職員の意見や提案の機会を設け、ケアに反映する事でサービスの質の向上に繋げておられます。車いすの利用者も一緒に出かける機会を多くして、外食や外泊等家族等の協力を得ながら支援しておられます。また、入浴の時間帯や介助の2人体制、シャワー浴、毎晩の足浴等利用者一人ひとりの状態に応じた入浴支援の工夫に努めておられます。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成22年6月23日		

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所に掲示してあり、朝礼等で読み上げ確認し実践に向けて取り組んでいる。	「住み慣れた地域の中で、家族や隣人と共に生活していく……」という事業所独自の理念を職員と一緒に作成し、職員会議で確認し、朝礼時に唱和して、共有、理解、実践につなげている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事案内をいただき参加している。小学校との交流、事業所主催の夏祭り等の案内を出して、地元の人と交流できるようにしている。	事業所主催の夏祭りや敬老会に地域の人の参加もあり、どんど焼きへの参加や小学校との交流、地域の人から野菜や花等の差し入れがあるなど、日常的に交流を深めている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談があればその都度対応している。施設行事には高齢者のための相談コーナーを設ける等行っている。		
4	(3)	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	全職員に自己評価を行ってもらう事でどのような取り組みが必要か認識し、職員間で話し合い改善に取り組んでいる。	評価の意義を説明し、全職員で取り組み、記入したものを事務長がまとめて職員にフィードバックして、確認後に提出している。自己評価する事でケアの根拠や課題を理解し、具体的な改善に取り組んでいる。	
5	(4)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に1回開催し利用者の現況、行事及び実施事項の報告をし、写真で日頃の様子を紹介し意見交換し改善・サービスの向上に活かしている。	市民生活課長、地域包括支援センター長、第三者委員、自治会長、利用者、家族等の参加で、2か月に1回開催し、利用者の現況、行事、外部評価報告、避難訓練等について話し合い、問題点の改善やサービス向上に繋げている。	
6	(5)	市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の介護保険課や地域包括支援センター等に運営相談、入居者に関する相談等適宜行い、質の向上に努めている。	介護保険課、地域包括支援センターと運営相談、利用相談、情報交換をしたり、地域ケア会議で研修、情報交換、行方不明者ネットワーク等での連携をし情報の共有に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>パンフレットに身体拘束、高齢者虐待等の排除の理念、及び方針を記載している。又ミーティング・職員会議等で話し合い拘束のないケアに取り組んでいる。日中は施錠せず外出時には一緒に付き添っている。</p>	<p>全職員が身体拘束による弊害等を理解出来るようマニュアルを作成し、方針を明記すると共に、ミーティングや職員会議で話し合い、共有し実践している。日中玄関は施錠せず、外出を察知した場合は一緒に出かけるなど、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	
8		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>ミーティング・職員会議・勉強会を通じて、虐待防止について取り組み職員の意識を高め、防止に努めている。</p>		
9		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>社外の研修や社内の勉強会を行い学ぶ機会を持つように努めている。</p>		
10		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>事前に十分な説明を行っている。又理解が不十分な時には何度でも説明をおこない、納得を図っている。</p>		
11	(7)	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者が意見・不満・苦情を言いやすい雰囲気作りを行っている。</p>	<p>相談、苦情の受付体制の明示や苦情処理マニュアルを作成し、利用者や家族が常に苦情や意見を言える雰囲気作りに努めている。利用者との日々の会話や第三者委員の気づき、家族の来所時や行事後の家族会での意見を運営に反映させている。</p>	
12	(8)	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ミーティング・職員会議などで職員に意見を言ってもらっている。又個別に話を聞く機会を設けている。</p>	<p>日々のミーティング時に出た意見や提案は、職員会議の前に提出し、検討して反映させている。職員個別に意見を聴く機会もある。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績や勤務状態を把握し、直接的な声掛け・助言等により向上心を持って働けるように努めている。		
14	(9)	職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内・社外の勉強会や研修に参加できるように努めている。特に新人職員には仕事をしながら、介護技術や接遇の方法を指導している。(OJT訓練)又、段階に応じた研修を行っている。	職員一人ひとりの力量を把握し、段階的に内外の研修参加を支援している。外部研修は勤務の一環として出席し、復命研修や資料回覧等全職員が共有出来るように、会議参加者に手当の支給もし、働きながらトレーニングしている。	
15		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に参加している。相互訪問等、交流する機会を設けている。又就職支援事業を通じて同業者と交流・研修会を開催している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にアセスメントを行い、不安な事、求めていること等よく聴く機会を作り、解消できる様に努めている。		
17		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前にアセスメントを行い、困っていること不安な事をよく聴く機会を設け努力している。		
18		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援を見極め、対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来ることは見守りしながら、一緒に行く。喜びや楽しみを共に共有し、支えあう関係を築いている。		
20		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には家族の意見や要望を聞く機会を持ち、一緒に本人を支えていく関係を築いている。		
21	(10)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	どなたでも面会に来やすいように心掛けている。又、希望時には(近場の場合)馴染みの方に合いに行ったり、馴染みの場所に行くなどの支援を行える体制をとっている。	知人、友人の訪問や自宅訪問、散歩中に知り合いの人との会話など関係継続の支援をしている。	
22		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がうまく関わりあえる様、食事時、入浴時レクリエーション時などを通じて、お互いの相性、関係を把握したうえでよい関係が保て、支えあえるように心掛けている。		
23		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても相談に応じられる体制をとっており、希望があれば各種行事のお知らせを送るなど交流の場を設けている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との会話や家族の情報などから、思いや意向を把握するように努め、職員会議やケアカンファレンスで本人本位に検討している。	事前のアセスメントや利用者との日々の会話、家族からの情報を基に1日の過ごし方、馴染みや生活環境の把握に努めている。	
25		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前のアセスメントや家族からの情報を元に職員の全員が経過の把握に努めている。		

グループホーム あじさい室津

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタル測定や本人の言動・日々の介護記録を基に朝礼や会議等で現状を総合的に把握するように努めている。		
27	(12)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族からの情報や本人の言動、仕草などから知り得た情報を基にカンファレンスを開き介護計画を作成している。	月1回のカンファレンス、サービス実施チェック表と6か月毎のモニタリング、評価や介護記録を基に、本人、家族、必要な関係者と話し合い介護計画を作成している。	
28		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録やバイタルチェック表など個別に記入し、職員全員で情報を共有し介護計画の見直しに活かしている。		
29		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望に応じて柔軟な支援をしている。家族が泊まる時には食事を用意することも可能。自宅で用事がある時は送り迎えの援助も可能(近場のみ)		
30		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察に情報を提供し、理解を求めたり避難訓練を通じて、消防の方にも協力をお願いしている。		
31	(13)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な往診や急変時にも受信や往診もでき、適切な医療が受けられるように支援している。希望のかかりつけ医への通院支援も行っている。	希望するかかりつけ医への通院支援や協力医の定期的及び急変時の往診にも対応し、医療機関との関係作りに努め、適切な医療が受けられるように支援している。	
32		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤の看護師を配置し、日常の健康管理や医療活用をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との連携を密に行い、本人が安心して過ごせるよう連携している。		
34	(14)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所後、早い段階から家族の意向を聴き、ターミナルケアも受け入れている。職員会議等で全員で方針を共有している。	指針、同意書を作成し、説明をしている。重度化した場合は、早い段階から家族や関係者と話し合い、希望に添った対応をしている。職員は全員で方針を共有している。これまでもターミナルの経験(6人)がある。	
35	(15)	事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	勉強会などや、日々の介護の中で学び、事故防止や急変時や事故発生時に対応できる様に取り組んでいる。	ヒヤリはっと事故報告書を記録し、対応策について話し合い、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。事故発生時等の対応について、看護師を講師にミーティング時にシュミレーションをしているが、全職員が応急手当や初期対応の実践力を身に着けているとはいえない	・応急手当、初期対応の実践的な定期訓練の実施
36	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアルが作成しており、訓練も定期的実施している。運営推進会議等を通じて地域の方との協力体制を築いている。	災害時マニュアル等の作成や防災研修、年2回昼夜想定避難訓練を利用者や地域住民(自治会長からの呼びかけ)と一緒に実施している。避難場所は隣接の高い場所に協力依頼をしている。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りやプライバシーを損ねない言葉かけを工夫し対応している。入浴時やトイレ時など必ずドアを閉め、他者から見えないようにしたり、タオルを掛ける事で肌を露出しすぎないように配慮している。	入浴や排泄、日々の会話のマニュアル等を作成し、全職員が利用者の誇りやプライバシーを損ねないように工夫し対応している。日常的な指導は管理者がしており、確認、改善に取り組んでいる。	
38		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が自己決定出来る様な声掛けの工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、その人らしく過ごせるよう支援している。入浴・食事・就寝・起床等、一日の流れはあるが日々の本人の体調・気分によりその人のペースを大切にし、その人らしく過ごせるように支援している。		
40		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	二か月に一度訪問美容がある。(毛染めも可能)希望があれば、希望の店に行くことも可能。(近場のみ)		
41	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に簡単な調理や盛り付け、配膳、後片付けを行っている。	副食は三食とも配食だが、畑で採れた野菜や差し入れの野菜を調理し、職員と一緒に台拭き、下膳、茶碗拭き等をしている。好みを把握し、とろみやきざみ等形態の工夫や敬老の日、父の日等の行事食(赤飯・刺身・好物)等食事を楽しめるよう支援している。	
42		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量や水分量を記入し、一人ひとりに合った食事、形態の工夫をしている。		
43		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施し、自分ではできない利用者に対しては職員が義歯のケア、夜間には洗浄剤に漬け置きしている。		
44	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄のパターンや習慣を把握し気持ちよく排泄できるように声掛けや誘導などを行っている。	排泄チェック表を作成し、一人ひとりの排泄パターンや習慣を活かし、さりげなくトイレ誘導の声かけをするなど、自立に向けた支援を行っている。失敗した場合でも、本人が傷つかなないように手早く、周囲に気づかれないよう配慮しながら対応している。	

グループホーム あじさい室津

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を作成し全職員が状況を把握している。お茶ゼリーなどを作り、こまめに水分補給をおこなうようにしている。又、体操・散歩など利用者に合った運動を取り入れて便秘の予防に取り組んでいる。		
46	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日の入浴を基本としている。本人の希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。又体調に合わせてシャワー浴や清拭を行っている。	10時～15時の時間帯に毎日入浴が可能で、2人体制の支援や体調や気分に応じてシャワー浴、清拭、半身浴等一人ひとりに応じた入浴支援をしている。又、毎晩足浴も行い気持ちよく就寝できるよう工夫をしている。	
47		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じて、休息したり眠れるように支援している。		
48		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬管理表を作成し、薬の目的や副作用、用法や用量について理解で出来るようにしている。必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。		
49	(21)	活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴、趣味など得意分野を把握し陶芸や散歩など楽しく過ごしていただける様に支援している。	陶芸、はり絵、読書、習字、裁縫、折り紙、歌、ラジオ体操、花壇や野菜作りなど、得意分野で一人ひとりの力を発揮して楽しい日々を過ごしたり、気分転換が出来るよう支援している。	
50	(22)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族との外出は自由に出来る。希望があれば、個別の外出に付き添う等支援している。	季節毎の花見(桜、菖蒲等)、法話、お大師さん詣り、初詣、蛸祭り、どんど焼き、みかん狩り、車いすの利用者も一緒に出かける工夫をしての外出や外泊等、家族等の協力を得ながら支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>現在、お金を所持している方はいないが、希望や状況に応じ対応している。</p>		
52		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>希望があれば、電話をかけたり手紙を出す支援をしている。手紙を出す時利用者の言葉を下書きし、それをご本人に書いてもらうなどの支援をしている。</p>		
53	(23)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>台所・リビング・廊下まで見渡せるようになっており、共用の空間は季節に合わせた貼り絵などを作成し、心地よく過ごせるように工夫している。</p>	<p>介護度が高くなっている利用者の移動がゆっくりと出来、玄関に飾られた花やはり絵で季節を感じたり、大きな窓で自然の木々の様子が見られる。台所から、食堂、廊下、玄関まで見渡せ、浴室やトイレは隣接しており、共用空間にいる職員と台所にいる職員で見守り体制が出来ようになっている。</p>	
54		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビングにソファを2台、向きを変えて設置し、思い思いに過ごせるように工夫している。</p>		
55	(24)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れたものや好みのものを持ちこめるようになっている。</p>	<p>整理タンスや洋服ダンス、椅子、ベット等使い慣れた物や好みの物(雑誌や写真等)を持ち込め、居心地良く過ごせる工夫をしている。</p>	
56		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>安全に移動できるように手すりを設置している。利用者の身体に合わせ、ポータブルを居室内に設置するなど工夫している。又、自尊心を傷つけないように声掛けし一人ひとりの力を活かして自立して生活していけるように工夫している。</p>		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホームあじさい室津

作成日: 平成 22年 11月 5日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	全職員が、日々の介護の中でおきる急変や事故に対して、応急手当や初期対応の実践力が身についていない。	全職員が、日々の介護の中でおきる急変や事故の予測ができると共に、その対応が理解し実践できる。	月1回、ヒヤリはっとや事故事例等で介護現場で起きる、急変や事故を知り、それに対する対応を学びシュミレーションできるよう勉強会を開催する。	12ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加すること。